



今年度もあと少しとなりました。この一年間大きなケガや病気もなく過ごせたでしょうか。
今月は「こどもの事故」について気をつけていただきたいことのお話です。



こどもの事故について

乳幼児期の子どもは、大人と同じ環境で過ごしていますが子どもの身体・運動能力は大人と大きく異なります。大人にとって快適な環境でも、子どもにとっては身の回りのものが事故の危険原因となることがあります。子どもは発達が早く、昨日できなかったことが急に出来るようになることから対応が遅れがちになってしまいます。

0・1・2歳児の事故は12歳以下の事故の中で半数を占め、更に1歳児の事故に限ると0~2歳児の4割を超えています。事故の傾向としては「転落」「転倒」「誤飲・誤嚥」が多く、発達との関係が見られます。

※ 誤飲（食べ物以外のものを誤って飲み込んでしまうこと）

※ 誤嚥（通常なら食道へと送られるはずの食べ物や唾液などが誤って気管に入ってしまう状態）

※事故にあいやすい子どもの本来的な特性

① 体が小さい。

- ・喉が細いため誤飲による窒息を起こしやすい。
- ・身長が低く視界が限られ事故にあいやすい。
- ・出血・火傷など全身への影響が大きく重症化しやすい。



② バランスが異なる。（3歳児で3頭身、3~6歳児で5頭身前後と頭の比率が大きい。胴体の厚みよりも頭の直径が大きい。）

- ・バランスを失いやすく転倒しやすい。
- ・頭が通る隙間があれば身体も通るため落下事故が起こる。
- ・身体が通り抜けても頭が引っかかり抜けなくなる。

③ 身体能力・運動能力が未熟。（飲み込む力が弱い、皮膚が薄い、体温調節能力が低いなど、身体機能が未熟。筋力や平衡感覚などの運動能力が未熟。）

- ・飲み込む力が弱く誤飲から窒息しやすい。
- ・肌が薄く、ケガや火傷が重症化しやすい。
- ・体温調節能力が未熟で、熱中症・低体温症を起こしやすい。
- ・筋力が弱く身体を支えたりものにつかまったりできない。
- ・平衡感覚が未熟で素早く身をかかわして危険を避けることができない。

※事故の予防には想像力を働かせましょう。そして対策は発達に合わせてこまめに見直すことが重要です。

④ 理解力や行動は大人と異なる。

- ・危険がわからず触ったり口にしたりして予測がつきにくい。